新潟"地方創生"発信・交流事業 地域をひらく若い力 チカラ

新潟"地方創生"フォーラム
～大学生とともに創る、新潟の未来～

若者の声を通じてこれからの地域を考える「新潟・地方創生・発信・交流事業 地域をひらく若い力」(主催・新潟日報社、特別協賛・東北電力)が21日、新潟市中央区の新潟日報メディアシップで開かれました。地域の課題や復興支援に取り組む新潟4大学と宮城、岩手両県の大学生が意見交換。前岩手県知事・増田寛也さんの講演もあり、活性化のヒントを探りました。(文・写真 野崎)

第2部 大学生パネルトーク
「私たちが考える『地方創生』」

開会 まずは、それぞれの大学の活動報告をお願いします。

五十嵐 長岡市郡市商店街の住民と協働し、堀木町通りの再生を続けています。二枚続ぎ(ふすま)などの基本方針で、マップ作りや生活者向け住民投票によりコンパクト形式で復活しました。ハロウィンなどを開催し、堀木町通りの賑(にぎ)わいを作りました。

板垣 昨年5月、国立妙高青少年自然の家と「包括連携協定」を結びました。「体験の場」の大切さを伝えています。

木村 今までにない村上市の観光ガイドブックの製作や、村上木彫産業の新たなデザイン、地域を発信するためのデザインを企画しました。デザインで「地域の魅力を感じる」ことが出来ました。新潟県と村上市を繋ぐ「交流人口」を増やすのが、これからの課題です。

川瀬 東日本大震災の被災地ボランティアを希望する学生の受け入れや、作業のマッチングを行っています。「被災地を忘れない」ことで、「復興」に学生は、どこまで関わっていけるのか、全国各地で活動を展開しています。

寺田 被災者を聞き手に、子育ての「語り」を通じて、地域の人と繋がっています。

板垣 幼児キャンプに参加した子どもたちが大人になって、「地域の魅力」を感じ、地元に戻ってきてくれるような取組みを、子どもたちと共に考えています。

五十嵐 「100年持つ」という方針で、堀木本町通りでは、もう少し要もあり、地域と協働しながら、活動を継続していきたいです。

木村 デザインを通じ、村上市の人たちに地域の魅力を伝えるとともに、地域の魅力を広げたいという意識で活動しました。

寺田 幼児キャンプに参加した子どもたちが大人になって、地域の魅力を感じ、地元に戻ってきてくれるような取組みを、子どもたちと共に考えています。

板垣 地域の魅力は、「地域の人」です。地域の人が、地域の課題に取り組むことを通じて、地域の魅力を創出していく。地域の課題に取り組む「人」を育てることが、地域の魅力を創出することになります。

川瀬 地域の魅力は、「地域の人」です。地域の人が、地域の課題に取り組むことを通じて、地域の魅力を創出していく。地域の課題に取り組む「人」を育てることが、地域の魅力を創出することになります。

五十嵐 「地域の人」が、地域の課題に取り組むことを通じて、地域の魅力を創出していく。地域の課題に取り組む「人」を育てることが、地域の魅力を創出することになります。

木村 「地域の人」が、地域の課題に取り組むことを通じて、地域の魅力を創出していく。地域の課題に取り組む「人」を育てることが、地域の魅力を創出することになります。

板垣 「地域の人」が、地域の課題に取り組むことを通じて、地域の魅力を創出していく。地域の課題に取り組む「人」を育てることが、地域の魅力を創出することになります。

閉会 地域の魅力を感じ、地元に戻ってきてくれるような取組みを、子どもたちと共に考えていくことが、地域の魅力を創出することになります。

寺田 「地域の人」が、地域の課題に取り組むことを通じて、地域の魅力を創出していく。地域の課題に取り組む「人」を育てることが、地域の魅力を創出することになります。

増田 「地域の人」が、地域の課題に取り組むことを通じて、地域の魅力を創出していく。地域の課題に取り組む「人」を育てることが、地域の魅力を創出することになります。

出演者

●パネリスト
新潟大学大学院 五十嵐 佑大郎さん
新潟看護大学 板垣 賢さん
長岡造形大学 木村 朱里さん
長岡技術科学大学 谷澤 明日菜さん
石巻専修大学 伊藤 大馬さん
岩手県立大学 川瀬 直也さん

●アドバイザー
新潟県庁職員 寺田 吉道さん
尾張酒造株式会社専務取締役 尾垣 留美子さん

●コーディネーター
新潟県立大学 国際地域学部准教授 関谷 浩史さん

麻木町生・住民と連携
新潟大学(新潟市)

新潟大は2000年度から、省エネルギーの推進を目的とする「屋上プロジェクト」を開始しました。屋上プロジェクトは、学生が、屋上の緑化を活性化したいと思っている人たちを繋ぐ場になっています。

この活動は、「地域の人たちが、自分たちの地域を活性化したい」と思っている人たちが、「仕事」をしやすくなるように、地域の課題を解決するための仕掛(しかけ)を作ることです。

「地域の人たちが、自分たちの地域を活性化したい」と思っている人たちが、「仕事」をしやすくなるように、地域の課題を解決するための仕掛を作ることです。

子どもの成長サポート
新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部(新潟市)

新潟青陵大学・短期大学部は、平成28年度から、「子どもの成長サポート」を開始しました。「子どもの成長サポート」は、「子どもの成長を育む・幼児教育・保育・子育て支援」を通じ、地域の子どもたちの成長を支援します。

「子どもの成長サポート」は、子どもたちの成長を育む・幼児教育・保育・子育て支援を通じ、地域の子どもたちの成長を支援します。

生涯学習センターでは、子どもたちの成長を支援する「子育て支援センター」を開設しました。

「子育て支援センター」は、子どもたちの成長を支援する「子育て支援センター」を開設しました。

村上の地域と観光に光を
長岡造形大学(長岡市)

長岡造形大学(長岡市)は、村上市と、地域の観光に光を当てるプロジェクトを開始しました。

村上市は、「村上市観光ガイドブック」を制作しました。ガイドブックは、「村上市観光ガイドブック」を制作しました。

村上市は、「村上市観光ガイドブック」を制作しました。

道の駅で地域を活性化
長岡技術科学大学(長岡市)

長岡技術科学大は、道の駅を活用した地域活性化を目指しています。

長岡技術科学大は、道の駅を活用した地域活性化を目指しています。

長岡技術科学大は、道の駅を活用した地域活性化を目指しています。

サバだらけのラーメンに
石巻専修大学(石巻市)

石巻専修大は、地元の食材を使ったラーメンを開発しました。

石巻専修大は、地元の食材を使ったラーメンを開発しました。

被災地と学生を結ぶ
岩手県立大学(盛岡市)

NPO法人ヤマリンネットは、東日本大震災の被災地の学生のつながりを作るため、「ヤマリンネット」を立ち上げました。

ヤマリンネットは、2011年から、被災地の学生の「つながり」を作るため、「ヤマリンネット」を立ち上げました。

増田寛也さん

第1部 記念講演 講師 増田寛也さん
「地方創生を進めるために必要なこと」

日本各地人口が減少しています。新潟県も2010年に比べて、15歳～19歳の人口が2万人減少しています。

15歳～19歳の人口が2万人減少しています。

15歳～19歳の人口が2万人減少しています。